

4. 村の職業別人口

農林業中心の産業から、道路工事などの公共事業の増加にともなって、建設業がさかんになり、農林業にとって代わる村の人びとの働く場となりつつあります。また、工業（製造業）では、不便さなどの地理的な条件から、工場の数も少なくなっています。

商業では、人口が減ったことや他町村への道路の発達によって村内から品物を買うことが少なくなり、やや減る傾向がみられています。

職業別人口の移り変わり

(国勢調査)

職 業		昭和45	昭和50	昭和55	昭和60	平成 2
1次産業	農 業	1,251人	957人	749人	593人	395人
	林 業	110	109	81	92	69
2次産業	鉱 業	1	・	・	・	・
	建 設 業	203	227	278	240	228
	製 造 業	35	136	169	258	209
3次産業	商 業	98	84	105	85	80
	金融・保険業	3	3	7	2	3
	不 動 産 業	・	・	・	・	15
	運 輸 ・ 通 信 業	38	41	39	29	28
	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道	2	2	2	・	・
	サ ー ビ ス 業	145	141	131	123	127
	公 務 員	51	52	50	49	51
そ の 他	・	・	・	2	1	
計		1,937	1,750	1,611	1,471	1,206